

聖マリアヘルスケアセンターを過去に受診された、または現在受診中の皆様へ

聖マリアヘルスケアセンターでは、皆様の診療情報等を利用し、下記の研究を実施しております。

研究内容につきましては、社会医療法人雪の聖母会 研究倫理審査委員会にて承認されたものです。本研究の対象者に該当される可能性のある方で、ご自分の診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合、また、研究について詳細にお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先まで、ご連絡をお願いいたします。なお、解析用のデータが確定（データ固定）している場合は、研究データからあなたの情報を削除できませんので、ご了承ください。

① 研究課題名	回復期リハビリテーション病棟における重度片麻痺を有する脳卒中患者の ADL 改善に関わる因子		
② 実施予定期間	研究倫理審査委員会承認後～2023 年 10 月 20 日		
③ 対象患者	脳卒中片麻痺と診断され理学療法を受けられた患者さんのうち、2021 年 4 月から 2022 年 3 月の間に、回復期リハビリテーション病棟を退院した方で、回復期リハビリテーション病棟入院時、重度の片麻痺があった患者さん。		
④ 対象期間	2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日		
⑤ 研究機関の名称	聖マリアヘルスケアセンター		
⑥ 対象診療科	聖マリアヘルスケアセンターリハビリテーション科		
⑦ 研究責任者	氏名	加藤 聡	所属 聖マリアヘルスケアセンター
⑧ 使用する資料等	診療情報より下記事項を調査します。 年齢、発症から入院までの期間、在院日数、入院時認知機能として精神状態短時間検査（MMSE）、日常生活動作能力として機能的自立度評価法（Functional Independence Measure：FIM）、入院時片麻痺回復段階指標（Brunnstrom recovery stage：BRS）、入院時意欲（Vitality Index）		
⑨ 研究の概要	回復期リハビリテーション病棟入院時に重度の片麻痺を有する患者さんは、獲得する動作能力によって退院後の生活様式に大きく影響するため、動作能力をより向上させることや予後を予測した上で生活の質を上げることが必要です。また脳卒中患者のリハビリテーションにおいてADLの改善を早期に予測することはリハビリテーションを効率的に進める上で重要です。そこで回復期リハビリテーション病棟入院時に重度の片麻痺を有する患者さんに焦点を当て、入院から退院までのFIMの改善率の違いから退院時のADL改善に関与する因子を検討することで、理学療法プログラムの立案や予後を予測し、生活様式構築の支援に活用することを目的とします。		
⑩ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては下記の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑪ 結果の公表	学会や論文等で発表いたします		
⑫ 個人情報の保護	個人情報を保護するために責任者を設定します。研究する際、個人の特定につながる情報は、当院で特有の番号に置き換えて（このことを「匿名化」と言います）管理します。学会等で発表する場合も、個人を特定できる情報は使用しません。		

⑬ 知的財産権	聖マリアヘルスケアセンターに属します	
⑭ 研究の資金源	特にありません	
⑮ 利益相反	研究結果に影響を与えるような利害関係はありません	
⑯ データの2次利用	本研究で得られたデータ等の2次利用により新たな研究を行う場合は、改めて研究計画書を作成し、再度研究倫理審査委員会の審査を受けます。	
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	聖マリアヘルスケアセンター リハビリテーション室	
	電話	0942-35-5522（代表）